

令和2年度 神石高原町立油木小学校自己評価表

学校教育目標		未来を拓く ～人生を通じて学び、成長しつづける人に～		達成度＝達成値÷目標値×100 評価 A：目標以上 C：達成度が目標の60%以上80%未満 B：達成度が目標の80%以上100%未満 D：達成度が目標の60%未満						評価結果と課題の説明	担当			
中期経営目標	短期目標	具体的行動目標と手だて	評価指標 (評価項目・目標数値)	9月 達成値	9月 達成度	中間 評価	2月 達成値	2月 達成度	年度 末 評価					
主体性、コミュニケーション能力、価値観・倫理観を育てる	自分から、考え、関わりの育成 よさを価値づける児童の育成	(児童の主体性の向上) 児童会執行委員会を中心に奉仕的活動(ちょボラ)を行う意欲を高める。(2/3)	・児童アンケートで低学年は「進んでちょボラをしている。」と肯定的回答をする児童の割合を90%以上に する。高学年は「学校全体のために、 進んでちょボラをしている。」と肯定的 回答をする児童の割合を80%以上に する。	96%	107%	A	91%	102%	A	・「進んでちょボラをしている。」と回答した児童は、低学年は目標値に到達したが、高学年は目標値を達成できなかった。 ・全学年、帰りの会でちょボラチェックを行うことを継続し、内容についても交流することで、意欲的に取り組むことができた。それを油木っ子新聞に掲載し、全学年に配布した。しかし、高学年は、「学校全体のためになるちょボラ」を考え、実行することが難しく、数値が低くなっている。児童会執行部を中心に相手に優しい言葉をかけることに取り組んでいるところである。	保健生徒指導部			
		(課題発見・解決学習の展開) 算数科において、主体的・対話的で深い学びを取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める。(3/3)	・算数科の授業において、数学的な考え方を中心に指導を工夫・改善し、単元末テストで学年平均を85%以上に する。 ・全国学力・学習状況調査は、算数科の通過率で全国平均を上回る。 ・標準学力調査は、算数科の通過率で全国平均を3ポイント以上上回る。	84点	98%	B	86点	102%	A	・算数科の単元末テスト(2学期)で、学年平均86.3点、達成度102%となった。観点別では、知識・技能で90.9点、思考・判断・表現で80.2点で、思考・判断・表現に課題が見られる。見直しを持って、個人思考の時間を充実させ、個人の考えと他者の考えとを比較することで思考・判断・表現の向上に努めた。 ・全国学力・学習状況調査は学校単体で実施-67点だった。筋道立てて記述する問題に課題があった。言葉や数を使って説明する活動を増やしたり、複数のグラフを関連付けて考えさせることに取り組んだ。 ・標準学力調査は、1月に実施。校内研修を実施し、授業の工夫・改善を行うことにより、全国平均の3ポイント以上を達成した。 ・次年度は「次世代を拓くの人材育成」を目指し、読解力・思考力・情報活用能力の育成を図っていく。	校内74.5 全国69.7	107%	A	教務部
		(道徳科授業改善) 主体的に考え、協働的に議論する道徳の授業を行い、児童の道徳性を高める。(3/3)	・教職員相互・外部評価アンケートを行い、「主体的に考え、協働的に議論する道徳の授業を行う」で、4段階尺度評定法で評価を3以上に する。 ・児童アンケートで「道徳では自分の考えと友達の考えを比べている」で85%以上に する。	94%	125%	A					A	・「よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている」が92%であり、道徳性を養うことに一定の成果があった。また、「人の気持ちがわかる人になりたいと思う」92%、「相手のことを思いやり、親切にしている」98%であり、自他を尊重する心が育ちつつある。道徳教育は「豊かな心」培う中核となるものである。継続して取り組み、「児童の居場所づくり」「絆づくり」「自尊感情の向上」を図っていききたい。	教務部	
		(自他を尊重する態度の向上) 自分や友達のいいところを見つけようとする態度を培う。(他学年のいいところみつけをする。)(2/3)	・児童アンケートで「友達のいいところを見つけることができる。」と肯定的回答をする児童の割合を90%以上に する。 ・「自分のいいところが言える」と肯定的回答をする児童の割合を85%以上に する。	82%	91%	A	94%	104%	A	・肯定的回答をする児童の割合が高くなり目標値を上回ることができた。お互いのよさを見つける取組を継続し、各学級に掲示した。学級内にお互いのよさを認め合う雰囲気が出てきた。 ・全体として肯定的回答をする児童の割合は高くなったが目標値を上回ることではできなかった。学習や生活の場で肯定的な声かけをしたり頑張りや認める場を設定したりした。しかし、前期に引き続き、低学年で肯定的回答の割合が高く高学年で低い傾向が見られた。学年のまとめとして自分の成長を確認できる場を設定していききたい。	A	B	保健生徒指導部	
故郷への愛着と誇りを育てる学校づくり	故郷のよさを生かす地域を学ぶ児童の育成	(地域と学校が結ばれる学習の展開) 地域を題材として社会科、生活科、総合的な学習の時間を中心に学習を行ったり、各教科で身に付けた力を使って地域をとらえる学習を行ったりすることで、地域についての考えを深める。(2/3)	・児童アンケートで故郷のよさや故郷の課題と解決策について考えている児童の割合を85%以上に する。 ・保護者、地域アンケートで「学校は故郷について学習したり身に付けたりした力を使って故郷について考えている児童」を育てていると答える割合を85%以上に する。	79%	93%	B	73%	86%	B	・学習発表会で学んだことを報告したことで児童がどんなことをしてきたかがよく分かり保護者の方の理解を深めることができた。ただ地域の方に公開できていないので学校だよりや学級通信を活用して広げるようにしてきた。 ・児童にとって課題解決となる授業展開を行い、課題に対してこのような解決策があるということを明確に示す必要がある。そのことで児童が故郷と真剣に向き合う姿勢を育てていくことができると考える。	総務部			